

2020 年度事業報告

I. 調査研究事業部門

2020 年度事業計画に基づき、嗜好品と人間・社会に関する社会科学領域の調査研究や「嗜好品文化研究会」との嗜好品に関する横断的なテーマについての共同研究、およびたばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報収集、論考の取り纏めに取り組んだ。また、学術の振興を目的に、嗜好品の人文・社会科学等の領域に関する研究助成事業や研究誌、財団機関誌等を通じた普及啓発事業を実施した。

しかしながら、今般のコロナ禍により一部の研究等で当初計画からの中止・変更を行った。

1. 調査研究事業

当年度に実施した調査研究活動は次のとおりである。

(1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究

これまでの心理学研究および社会学研究の成果を踏まえ、嗜好品に関する各領域の調査・研究を実施した。心理学研究においては、対面での実験からオンラインでの調査に変更し実施した。社会学研究においては外部の研究者を交えた研究会（2017—19）の一部成果の学会発表を実施した。また全成果の公表（書籍化）を行った。その他各領域のこれまでの研究成果については、継続して学会発表や学会誌への論文投稿を実施した。また、調査結果については適時 TASC ウェブサイトにおいて発表した。

(2) 嗜好品文化研究

「嗜好品文化研究会」と共同でフォーラムをオンライン開催した。
なお、同会との共同事業は当該年度で終了した。

(3) たばこ史・たばこ産業史研究

研究助成等を通じて関係を構築した大学等研究機関の研究者や在野の研究者と連携を図り、たばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報を収集し、論考の取り纏めを行った。なお、都内近郊以外の現地取材を中止もしくはオンラインへ変更した。

(4) 研究関連情報の整備

調査・研究事業への効果的な活用を図るため、TASC 所蔵の書籍や研究報告書等諸情報の継続的な資料整備を行った。

2. 研究助成事業

2020年度採択の研究に対する助成及び2019年度助成研究の報告会を実施した。2019年度研究助成の成果は、助成研究報告書を作成し国会図書館に納本するとともに、要約と全編をTASCウェブサイトに掲載した。また、2021年度分の応募研究について、審査・採択を実施した。

なお、報告会、研究審議会は都内会場に参集せずオンライン開催へ変更した。また、2020年度採択した研究のうち渡航を要する研究については、2021年度以降へ延期した。

3. 普及啓発事業

当年度に実施した普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

- ① 研究誌「談」118号～120号
- ② 機関誌「TASC MONTHLY」532号(4月号)～543号(3月号)
- ③ 研究誌「たばこ史研究」151号～152号
- ④ 「2019年度事業概要」

※多くの東京近郊以外の取材をオンラインへ変更するとともに事前打ち合わせ等対面での接触を控えた

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

調査結果や助成研究の成果、定期出版物等の情報を適時掲載し、発信情報の充実を図った。

(3) 一誌雑誌での企画広告掲載

当年度より「月刊文藝春秋」誌において、学識者の嗜好品に関する考察等を発表する企画広告を6回実施した。

※地方での取材を見合わせ東京近郊もしくはオンラインを活用した取材をすることで施策を実施

4. 受託調査研究事業

外部講師を招聘し、現代社会の諸問題等に関する講演会を10月に実施した。

II. 博物館事業部門

今年度の入館者数は16,924人（対前年度25%）となった。これは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛要請や臨時休館によるもので、入館者数および閲覧室やミュージアムショップの利用は例年に比べて大きく減少した。予定していた特別展も延期もしくは企画変更・縮小を行なった。こうした中で、従業員・来館者の安全を最優先しつつも、安定かつ充実した博物館運営と情報発信力の維持するため、下記のとおり取り組んだ。

1. 安定かつ充実した博物館運営

- (1) これまで蓄積した各種知見を踏まえ、業務・運営面での課題等への対応を適時に行い、質の高い入館者サービスの維持に努めた。
- (2) 7月9～12日をメンテナンス臨時休館とし、館内設備の点検ならびに補修等を実施した。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大に対しては、従業員および来館者の安全を第一に、下記対応を実施した。
 - ・従業員マスク着用、博物館各所にアルコール消毒液を設置する等、感染防止措置を徹底（2020年1月末～現在）
 - ・博物館開館時間を短縮（11時～17時間）（2020年2月末～現在）
 - ・3月28日より6月1日までの期間、臨時休館とし、その間従業員は原則在宅勤務。
 - ・開催直後に休止した特別展「隅田川に生まれた文化 浮世絵に見る名所と美人」について、各種ネットサイトおよびツイッターを通じてお客様に展示風景、展示作品等を紹介。
 - ・「丸山コレクション 西アジア遊牧民の染織 塩袋と伝統のギャッベ展」（5月2日～6月28日）は延期し、その会期内は、「隅田川に生まれた文化 浮世絵に見る名所と美人」を延長し開催した。
 - ・「第41回夏休み塩の学習室」は「買い物ゲームで塩探し」を予定していたが、この情勢下で集客見込みが高いイベントを開催することは困難と判断し2020年度は中止とした。特別展示については、小・中学生への学習支援を中心に、自由研究などをしてほしい児童・学生へ場の提供をするという考え方に変更して、パネルを中心とした企画とした。実験イベントなどについても、2020年度は中止とした。なお「買い物ゲームで塩探し」は2022年度（第43回夏休み塩の学習室）に順延する予定である。
 - ・2020年9月より開催した「おもちゃ絵展」に関しては、事業計画段階より規模を縮小した形で開催した。

2. 調査研究活動

2020 年度以降の展示企画に向けたテーマおよび下記の領域・分野を中心に、「たばこ
と塩の歴史と文化」および収蔵資料に関する調査研究を着実に推進した。

(1) たばこ文化の発生と伝播

- ① たばこ文化の発生と伝播
- ② 世界のたばこ文化

(2) 江戸時代の文化とたばこ

- ① 浮世絵・版本
- ② 江戸時代の各地の葉たばこ生産
- ③ 江戸・明治期の喫煙具

(3) 近現代のたばこ文化・産業史

- ① 近現代のたばこ文化・産業史
- ② 戦前期の満州・朝鮮・台湾他、旧植民地関係たばこ調査
- ③ 葉たばこ生産に関する調査・外部との連携

(4) 塩の文化・サイエンス

- ① 塩の文化
 - ・塩利用の文化
 - ・塩生産の文化
- ② 塩のサイエンス

(5) 産業・企業系博物館論についての調査研究

- ・「COMIC」や各種学会にオンライン形式で参加した。

3. 情報発信力の維持

(1) 情報発信活動

① 特別展の開催等

コロナ対応で、企画変更、イベントの中止などはあったものの、「夏休み塩の学習
室」を含め年間 5 回の特別展および展示関連講演会等を開催し、質の高い情報発信
に努めた。

② イベント・講座

古文献・古文書を読む会（2 回）などを開催した。

③ 刊行物

- ・展示図録
「明治のたばこ王 村井吉兵衛」

④ 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

- ・常設展示の展示替
江戸時代のたばこ文化コーナーは 7 回、コレクションギャラリーは 3 回実施し

た。

・視聴覚ホール

特別展に関連して講演会を3回実施した。なお、すべて事前申し込み制とし、会場の定員の半分以下で開催した。

・図書閲覧室

特別展に合わせ開架図書を変える等来館者サービスの向上に努めた。

(2) 収蔵資料等のデータベース化と活用

収蔵資料等のデータベース化を進め、来館者へのサービス向上を図った。

(3) 周知広報・PR

① 所在地周知 PR・アクセス案内

HP、メトロ最寄り駅駅貼りポスター、メトロ総合出口案内板、電柱広告、消火栓標識広告等を通じ案内を行った。

② 特別展・イベント等の周知

HP、ツイッター、リリース配信、新聞およびインターネットなど、多様なメディア、手段を通じて事前周知を行った。

WEB 展覧会や YouTube 上に展示解説動画をアップするなど、博物館に来館せずとも楽しめるコンテンツを作成した。

③ JT と連携した WEB (HP) 活用

JT サーバーの変更、運用変更にもなう制作会社との契約変更などの作業を行った。

④ SNS を通じた情報発信

WEB (HP) に加え 2020 年 12 月よりツイッターを通じた特別展や臨時休館等の情報発信を行なっている。

⑤ 他館等と連携した PR

東京の美術館・博物館等 95 施設の共通入館券「ぐるっとパス 2020」に加入した。

4. 地域社会との良好な関係維持

すみだ企業博物館連携協議会への参加等を通じ、地域社会、近隣博物館との交流を実施した。

5. 資料収集・整理・保存

(1) 史・資料保管体制の確立

収蔵資料の整理を順次進めるとともに、収蔵庫をはじめ館内の定期的な環境モニタリングおよび IPM (総合的有害生物管理) の確立を進めた。

(2) 寄贈資料への対応

寄贈資料については、資料検討委員会で評価を行い、192 件の資料を収集・登録する

とともに、寄贈者への適切なリファレンスを実施した。

(3) 資料購入

58 点を購入した。

(4) ポスターの実物資料収集等

新製品のポスター、パッケージ等の資料は、継続して収集した。

6. その他の活動

(1) 職員の教育・研修

関連団体・学会等による研究会・研修会などへ積極的に参加した。

(2) ミュージアムショップ

オリジナル商品の製作・販売のほか、展覧会毎に関連商品の販売を行い、好評を得た。

(3) 博物館実習受入

6 大学 6 名を受け入れた。

以上